

村山地区特別支援教育研修会
令和8年8月27日(木)：オンライン開催

それぞれの学びの場で活かせる 「自立活動の指導の充実に向けて」 ～次期学習指導要領改訂の方向性を踏まえて～

講師：文部科学省初等中等教育局視学官（併）特別支援教育課特別支援教育調査官 菅野 和彦 氏

次期学習指導要領改訂では、「自らの人生を舵取りすることができる民主的で持続可能な社会の創り手の育成」を掲げ、「主体的・対話的で深い学び」の実装、多様性の包摂、実現可能性の確保 を三位一体で具現化し、多様な子供たちの「深い学び」を確かなものにしていくことが基本的な考え方になっています。

自立活動においては、障がい種や学校種に関わらず、自立活動を正しく理解すること・「自立活動の個別の指導計画」の視点から、授業づくりや児童生徒理解をしていくことが大切です。自立活動の考え方を参考にするこ
とで、通常の学級における特別な配慮を必要とする児童生徒への支援の充実にもつながります。

おさえおきたい 自立活動の基本的な考え方

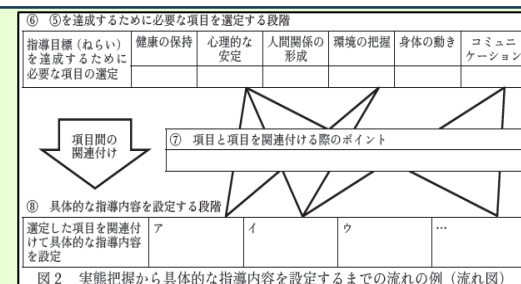
＜目標＞個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。

- ☞ 自立活動は、その指導が各教科等において育成する資質・能力を支える役割を担っています。
- ☞ 本人が主体となって、よりよく生きていこうとすることを踏まえた指導をしていくことが必要です。
- ☞ 「自立活動の個別の指導計画」の作成は、一人一人の実態把握に基づき、個別に指導目標や、具体的な指導内容等を設定します。

※参考：特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）

～先生方の悩み～ 自立活動で何をすればいいの？ 自分の指導方法は、合っているの？
児童にやることを示したら「やりたくない。」と言われた時の対応について知りたい。等

- ◆ 「自立活動の個別の指導計画」を活用しましょう。指導計画は、仮説に基づいて立てた見通しです。（学習指導要領解説「流れ図」参考）
- ◆ その子の課題や困難の背景を予測する、推測する、思いを馳せる等、「目の前の児童生徒をどのように理解するか」がとても大切です。
- ◆ 指導では、本人が得意な部分や発達が進んでいる部分等を活用していきましょう。実態把握では、児童生徒との対話を基に考えることも有効です。



【学習指導要領解説 自立活動編より抜粋 P28～】

「指導すべき課題を整理する手続きで、表面的な困難さや課題に着目しても、主体的に自己の力を可能な限り発揮し、よりよく生きていこうとすることには、つながらない。

その課題の背景や要因を紐解く営みの積み上げこそが、専門性の向上（障害のある児童生徒を担当する教師としての力量形成にほかならない）となる。」～菅野先生のお言葉より抜粋～

本協議会は、幼児教育と小学校以降の教育関係者がともに研修を行うことで、子どもの学びやそれを支える教育の連続性についての理解を深め、どのように連携・協働を進めていくかを考えることをねらいとして開催しました。村山管内の幼稚園・認定こども園・保育所をはじめ、小学校、中学校、特別支援学校、大学、保
育行政、教育委員会などから、191 名もの方々に御参加いただき、活発な協議が行われました。

全体会・講演 東海大学教授 寶来 生志子 氏

「遊びをとおした学びは、どう小学校へつながるのか～子どもの姿から考える幼保小接続～」

次期学習指導要領では、「子どもを育てる」学校から、「子どもが育つ」学校にしていくことが求められます。こうした学校をつくるためには、一人ひとりの子どもを大切に、幼児期に培った力を土台にして、小学校教育へつなげるという認識をもつこと、そして、何でもやってあげる今までのスタートカリキュラムから、「子どもは、学ぶ意欲をもった有能な学び手である」という肯定的な子ども観を学校全体で共有し、子どもが試行錯誤できる環境構成を中心とした「新しいスタートカリキュラム」へと発想を転換させる必要があります。



子どもが幼児期の学び方と小学校での学び方を行きつ戻りつしながら、総合的な学びを生み出すことができるようにカリキュラムをマネジメントすることで、子どもの「学びに向かう力」は育まれ、スタートカリキュラムが充実していくという、大きな学びを得ることができました。

参加者の感想より	子どもの「学びに向かう力」を育むには、肯定的な子ども観による新しいスタートカリキュラムの実現が、学校経営において重要であると考えさせられました。（小学校校長）	子どもの「やりたい」「できるようになりたい」という動機づけを大切に、教師が伴走することで、主体的・対話的で深い学びは生まれるのだと考えました。（中学校教諭）
“小学生になるために…”という焦りも出てくる時期こそ、たくさん経験をしてきた子どもたちと一緒に考えて、ともに解決できる保育が理想だと感じました。（保育教諭）		

第1分科会 東北文教大学付属幼稚園による実践発表

協議の柱

- ① “子どもの学びをつなぐ”ために、幼児教育と小学校教育で、どのように連携していきたいか。
- ② “子ども主体の学び”を深めるために、どのような園内研修・校内研修をしていきたいか。

参加者の感想より

・小学校の先生が幼稚園の環境を参考にしてくださるように、園が真似できることもたくさんあるのではないかと思います。（保育教諭）

第2分科会 神町幼稚園による実践発表

協議の柱

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共通の視点として活用し、幼保小が継続的に子どもの育ちをつないでいくためには、どのような連携が考えられるか。

参加者の感想より

・幼児期にどのような力を高め、どのような教育を展開しているのかを理解し、教育にあたらなければと思いました。（小学校教諭）

家庭教育支援の視点から考える子どもの生活習慣づくり

7月17日（金）に令和8年度第1回家庭教育支援フォーラムを開催しました。講師及び実践発表者2名からお話をいただき、参加者によるグループワークを行いました。

講師



三井 哲夫 氏
山形大学医学部
小児科学講座 教授
「生活リズムの確立・重要性について」

子どもの生活習慣に大きく関わる睡眠や体内時計について、医学的な知見からお話をいただきました。

実践発表者



奥山 恵治 氏
株式会社 sumika 代表取締役
「「やまがた子育て5か条」リーフレットを活用したPTA活動」



土屋 隆子 氏
村山市立権岡中学校 養護教諭
「生徒とともに考える生活リズムの重要性について」

参加者の感想

- ・「やまがた子育て5か条」リーフレットを活用し、親と子どもが話し合える取組みをしていることが素晴らしいと感じました。
- ・生活リズムの大切さについて、医学的知見から御講話いただき、大変分かりやすかったです。
- ・中学生が自分達で取り組むことを学校全体でサポートして下さっていることに感銘を受けました。

3名の話を聞いて、様々な立場で意見交流を行いました。

令和7年度天童市立長岡小学校PTA会長として、「やまがた子育て5か条」リーフレットを活用し、「人が動く仕組み」づくりの実践をお話いただきました。

「パワーアッププロジェクト」と題し、生徒自身が生活習慣を見直し、よりよい学校生活を送ることができるよう、取り組んだ実践を紹介いただきました。

やまがた教育パートナーズで体験学習が充実！



ポータルサイトで、山形県教育委員会が認定する企業等の情報を検索！！

①企業や団体に直接問い合わせる日時を調整！
②原則無償（※）で、教育支援活動を実施！

企業・団体も大募集中！！

詳しくはHPへ！

山形県教育委員会
〒990-8575
〒990-8575
Tel: 0237-630-3344
Mail: kosei@pref.yamagata.jp

県教育委員会では、学校と企業等をつなぎ、子どもたちに多様な学びの機会を提供するため、「やまがた教育パートナーズ」を実施しています。企業等のもつ専門性を学校の授業や様々な教育活動に取り入れることで、子どもたちの体験学習のさらなる充実を図り、社会全体の教育活動への参画意識の醸成につながるよう事業を展開しています。

村山教育事務所といたしましても、各校の実態や要望に応じた取組みにつながるよう、本事業に関連する情報の収集・提供に努めてまいります。

また、今年度は「マッチング会議」が村山地区で開催されます。学校と企業等が一堂に会し、互いのニーズや取組みを伝え合うことで、本事業を県民の皆様から認識していただくとともに、より多くの実践や新たな連携に結び付けることをねらいとしています。「マッチング会議」への積極的な御参加をお願いいたします。

村山地区 マッチング会議

期日 令和8年11月13日(金) 場所 寒河江市中央公民館

Murayama Young ボランティア スキルアップセミナー

令和8年度青少年地域活動・ボランティア活動推進事業
期日：8月6日（木）、7日（金） 会場：県青年の家

今年度、村山管内より総勢41名の中学生の皆さんが参加して行われました。高校生9名や各市町教育委員会の担当者が班付アドバイザーとして加わり、学年や学校の違いを越えて交流を深めながら、保育施設、放課後児童クラブ、介護福祉施設で活動しました。実技講座で身に付けた知識や技能を生かし、「自分たちにできることは何か」を考え、工夫しながらボランティアを実践しました。普段とは異なる場所で、さまざまな世代の方々と関わる中で、多くの気づきや学びを得ることができた2日間となりました。今回の体験をきっかけに、参加した皆さんがこれからも地域とのつながりを大切にし、それぞれの学校や地域で力を発揮してくれることを期待しています。

- ・最初は不安な気持ちでいっぱいでしたが、2日間の体験を通して、たくさんの人や子どもたちと関わることで、とても楽しかったです。また、たくさんのボランティアサークルがあることを知り、これから参加してみたいと思いました。ボランティアは私にとって遠い存在でしたが、誰にでもできる身近なものであり、相手のためだけでなく、自分自身も学ぶことがたくさんあるのだと分かりました。（中3）
- ・この2日間で、僕のボランティアに対する気持ちが変わりました。自分たちが作ったものを喜んでくれる人がいることを知り、ボランティアをする意味を見つけることができました。次は、友達に誘われて参加するのではなく、自分から進んで参加し、今度は自分が友達を誘う側になりたいと思いました。2日間、ありがとうございました。（中3）



CS出前講座

御活用ください！

村山教育事務所では、コミュニティ・スクールの理解促進や地域学校協働活動の充実に向けて、「CS 出前講座」を実施しております。

6月29日（月）には、中山町にて3回目の講座を実施しました。「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」をテーマに、中山町の各学校運営協議会委員や地域学校協働活動推進員の方々へ、学校運営協議会や地域学校協働本部の役割、地域学校協働活動によって生まれる効果等について説明しました。地域学校協働本部を基盤として、地域学校協働活動推進員を中心に地域住民同士がつながることで、地域の力を教育活動に生かし、子どもたちの学びや体験を地域全体で支えることができることを実感いただけました。また、地域学校協働活動の実践事例をもとに、委員の皆様で意見交流した際には、和やかな雰囲気の中、地域と学校の連携・協働による双方のメリットやこれからの活動について意見が交わされました。

これから開催されます学校や教育委員会、PTA等の各種研修会において、実態や要望に応じた内容で実施しますので、ぜひ「CS 出前講座」を御活用ください。

＞コミュニティ・スクールの理解を深めたい！
＞地域学校協働活動を充実させたい！
＞他市町村の実践事例を知りたい！

CS 出前講座

を ご活用ください！

村山教育事務所では、コミュニティ・スクール（CS）や地域学校協働活動の基本的な考え方を学んでいただける「コミュニティ・スクール、地域学校協働活動出前講座（CS出前講座）」を実施しております。学校や教育委員会、PTA研修会、各種研修会等でご活用いただけます。令和7年度は、7回実施いたしました。

申込みの流れ

- ①下記担当へ連絡
希望する期日、内容等お知らせください。
- ②社教課HPより申込用紙DL
必要事項をご記入ください。
- ③下記担当へ送付
その後、電話にて打合せを行います。

【お問合せ】
村山教育事務所 総務課 担当：主任指導主事 大沼 恵樹
＜Mail＞kouzense@pref.yamagata.jp Tel: 0237-66-2612 Fax: 0237-66-8263
村山教育事務所 社会教育部 担当：社会教育部主事 小嶋 真幸
＜Mail＞kouei@pref.yamagata.jp Tel: 0237-66-8120 Fax: 0237-66-8263